

矢部川総合水系環境整備事業

新規事業採択時評価 説明資料

矢部川水系の概要

やべかわ 矢部川 流域の概要

矢部川は、その源を福岡、大分、熊本の3県にまたがる三国山(標高994m)に発し、日向神峡谷を流下し、中流部において支川星野川、さらに辺春川、白木川等を合わせながら筑後平野を貫流し、途中沖端川を分派して、下流部で飯江川、楠田川と合流し有明海に注ぐ、幹川流路延長61km、流域面積647km²の一級河川である。

- 水源 : 三国山(標高994m)
- 流域面積 : 647km²
- 幹川流路延長 : 61km
- 流域内市町村 : 4市1町
- 流域内人口 : 約16万人
- 想定氾濫区域面積 : 124.8km²
- 想定氾濫区域内人口 : 約10.6万人
- 想定氾濫区域内資産額 : 約1.9兆円



下流部

【河口～瀬高堰】

平野や田園地帯を緩やかに蛇行しながら有明海へと注ぎ、国内最大の干満差による影響を受け、汽水域や河口に干潟・ヨシ群落が形成している。



中流部

【瀬高堰～花宗堰】

扇状地に広がる田園・市街地を貫流し、川床は礫・砂で形成され川幅は変化に富み、アユやホタルも見られる。



上流部

【花宗堰～源流】

急峻な山地となっており、川床は礫・大礫で形成され、河畔林と瀬・淵が連続する美しい溪流環境である。



矢部川（直轄管理区間）の概要

河川の概要（直轄管理区間）

- 矢部川の水は、古くから日本有数の穀倉地帯である筑後平野の農業用水や発電用水に利用され、筑後地方における産業活動の礎になっている。
- (直轄管理区間) 上流部は、福岡県最大規模の広さを誇る県営「筑後広域公園」や国指定天然記念物の「船小屋ゲンジボタル発生地」や「新舟小屋のクスノキ林」のある中ノ島公園があり、スポーツや市民の憩いの場所として利用されている。
- (直轄管理区間) 下流部は、ノリ養殖漁業の拠点地として発展した中島漁港等が存在するほか、高水敷等が散策等に利用されている。また、低平地の特性を生かした「クリーク」が網の目のように発達し、柳川市では、掘割・クリークを利用した川下りができる観光地として多くの観光客が訪れている。



上流部：中ノ島公園下流



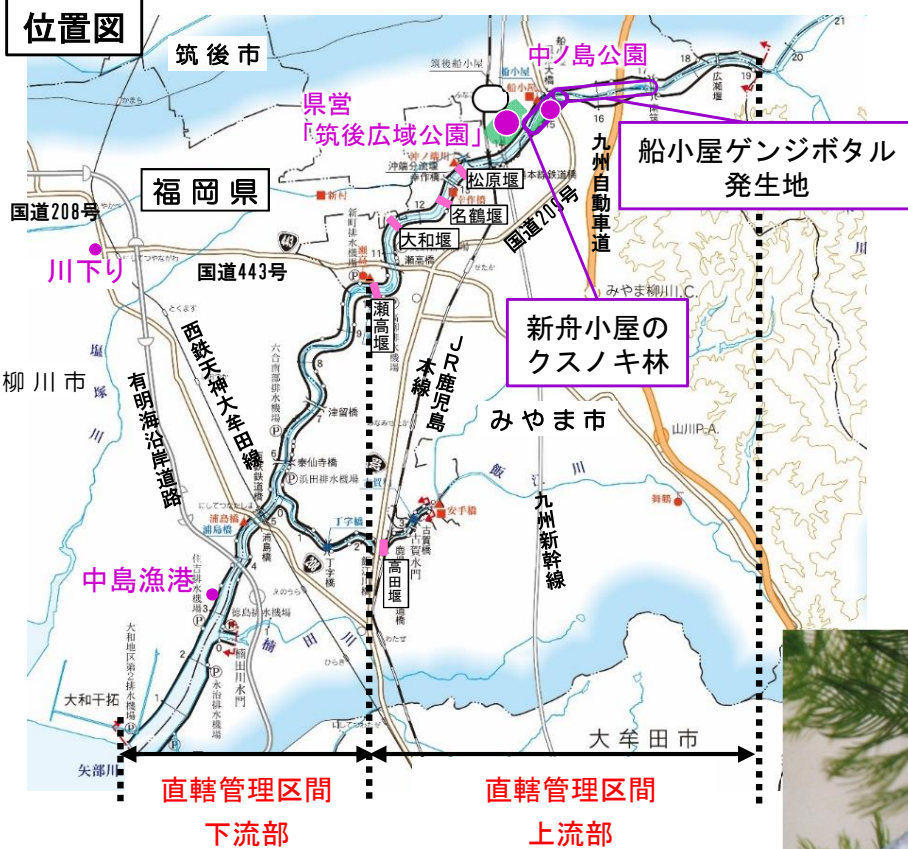
下流部：楠田川合流点付近

評価項目：河川環境等を取りまく状況

河川環境等を取りまく状況

- (直轄管理区間)上流部は、扇状地に広がる田園・市街地を貫流し、川床は礫・砂で形成され、瀬淵が連続する区間と堰による湛水区間に区別され、アユ等の貴重な産卵場や、タナゴ類等の生息場となっている。また、国の天然記念物の「船小屋ゲンジボタル発生地」や「新舟小屋のクスノキ林」が残されている。
- (直轄管理区間)下流部は、平野や田園地帯を緩やかに蛇行し有明海へと注ぎ、国内最大の干満差による影響を受け、汽水域や河口干潟を形成し、有明海特有のエツやムツゴロウ、ハラグクレチゴガニ等が生息している。

位置図



【直轄管理区間上流部】



ニッポンバラタナゴ
(環境省絶滅危惧Ⅰ類)



ゲンジボタル
(船小屋ゲンジボタル発生地:国指定天然記念物(文部省告示第350号))

【直轄管理区間下流部】



エツ
(有明海汽水域特有の魚類、環境省別滅危惧Ⅱ類)



ムツゴロウ
(有明海干潟特有の魚類)

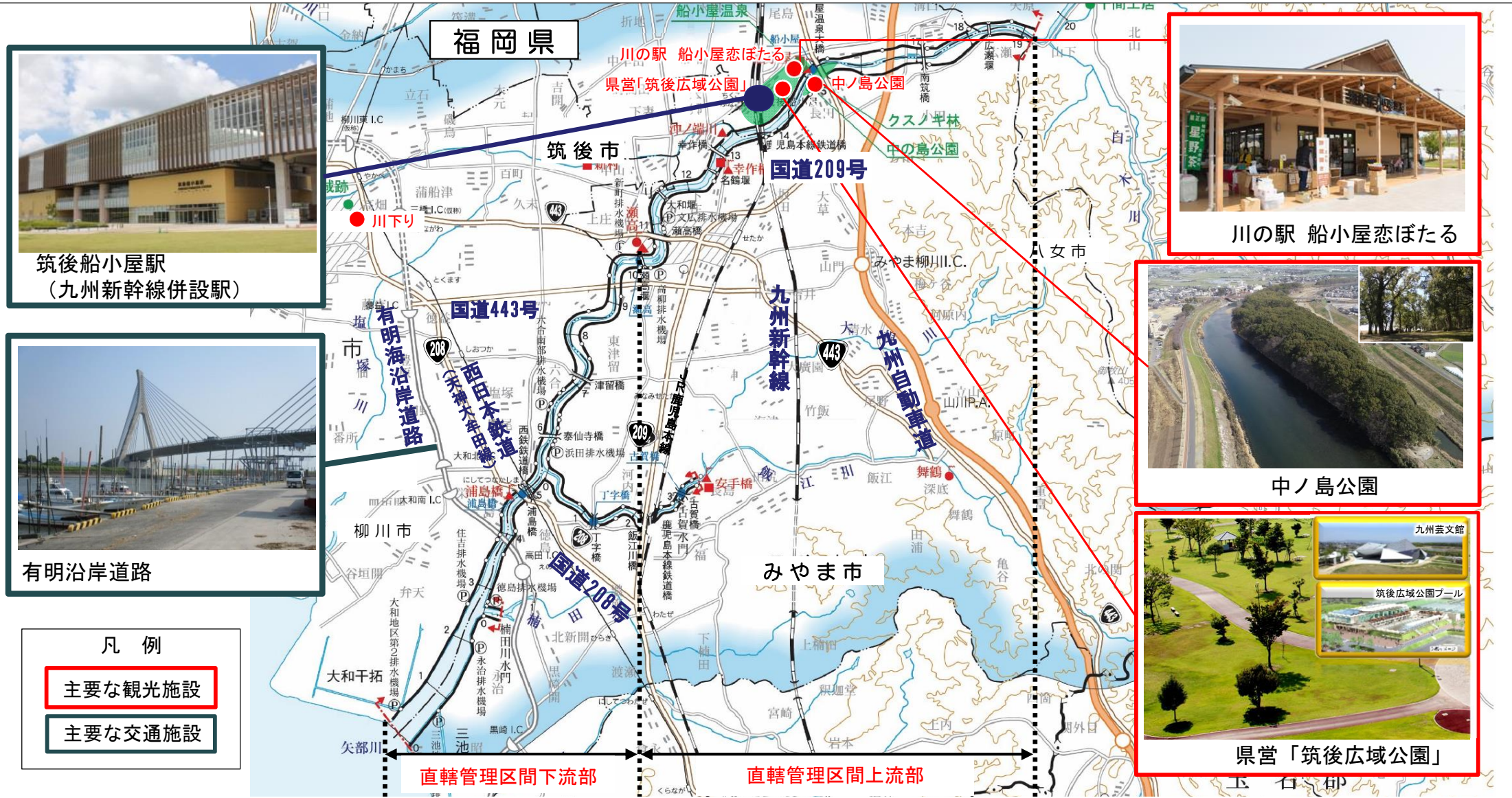


ハラグクレチゴガニ

評価項目：地域開発の状況

地域開発の状況

- (直轄管理区間) 上流部は、川の駅船小屋恋ぼたるや中ノ島公園、県営「筑後広域公園」などがあり、国道209号や九州自動車道が通り、九州新幹線等が通っている。
- (直轄管理区間) 下流部は、有明海沿岸道路等や私鉄(西日本鉄道)が通っている。
- 上下流ともに、多様な交通手段が存在するためアクセス性が高いが、特に新幹線が開通した筑後船小屋駅周辺においては開発が進んでおり、利活用の促進・賑わいの創出が期待される。



筑後船小屋駅
(九州新幹線併設駅)



有明沿岸道路



川の駅 船小屋恋ぼたる



中ノ島公園



県営「筑後広域公園」

凡例

主要な観光施設

主要な交通施設

直轄管理区間下流部 直轄管理区間上流部

河川の利用状況

- 矢部川流域の年間利用者数は約22万人(「河川水辺の国勢調査」推計値)で、散策、釣り、水遊び等多岐にわたった利用がされている。
- (直轄管理区間) 上流部では、かつて水浴場等で賑わっていた中ノ島公園周辺や県営「筑後広域公園」において、マラソン大会やピクニック、釣り等で利用されているほか、「筑後船小屋花火大会」が開催され、多くの観衆が訪れている。
- (直轄管理区間) 下流部では、掘割を川下りする「おひな様水上パレード」(柳川市)や「中島朝市」(中島漁港)等が開催されている。
- 流域では一斉清掃活動や、流域活動団体や近隣小学校による環境学習が実施されている。

【直轄管理区間上流部】



賑わいを見せた中ノ島公園周辺の様子(昭和30年代)



マラソン大会の様子
[県営「筑後広域公園」]



ピクニックの様子
「中ノ島公園」



日常的な利用状況
(釣り・水遊び)
[中ノ島公園付近]



筑後船小屋花火大会の様子
【中ノ島公園付近】

【直轄管理区間下流部】



柳川雛祭り おひな様水上パレードの様子 [柳川市]



中島朝市の様子
[漁港付近]

【流域】



流域一斉清掃(ノーポイ運動)の活動状況



流域活動団体の環境学習会



近隣小学校による水生生物調査

船小屋地区付近の利用状況

- 矢部川沿いには、船小屋温泉郷や整備中の県営「筑後広域公園」、川の駅船小屋恋ぼたる等、堤内には魅力ある施設が集中し個別施設で賑わいを見せているものの、堤内外が一体となった賑わいとなっていない。
- このため、自治体等が連携し、個別施設にとどまっている賑わいを広域化するため、中ノ島公園を中心とした矢部川の河川空間を活用した社会実験を開催し、水辺の賑わいの創出および地域活性化を目指す取り組みを行っている。



【船小屋温泉郷】

江戸末期から温泉郷として歴史のある温泉。全国的に珍しい炭酸泉で近年は足湯を無料開放。



【県営 筑後広域公園】

マラソン大会や花火大会等の様々なイベントが開催。（年間利用者約21万人）



【川の駅 船小屋恋ぼたる】

物産館・温泉館のほか、コンサート等の様々なイベントが開催。（年間利用者約17万人）



矢部川の水辺に賑わいを取り戻す社会実験（川遊び体験の様子：矢部川川遊び）

課題

- 船小屋地区では、社会実験等を通じて課題等が明らかになっている。
 - ・ 堤内（「筑後広域公園」や川の駅船小屋恋ぼたる等の周辺施設）と堤外（河川空間）が、アクセスに支障のある堤防等で分断されている。
 - ・ 堤内（矢部川から中ノ島公園へ）のアクセス路が整備されておらず、来訪者の安全な通行を妨げている。



船小屋地区右岸側
（県営「筑後広域公園」側の状況）

県営「筑後広域公園」から矢部川へは、急な堤防がアクセスを妨げ、矢部川の水辺と連動した利活用のできる空間になっていない。



船小屋地区右岸側
（川表堤防の状況）

県営「筑後広域公園」側の矢部川堤防から水際までは高低差があり、かつ、水際に下りる階段等が少ないため、公園側から矢部川へ観光客を呼び込めていない。



船小屋地区右岸側
（水際の状況）



船小屋地区左岸側
（矢部川の状況）

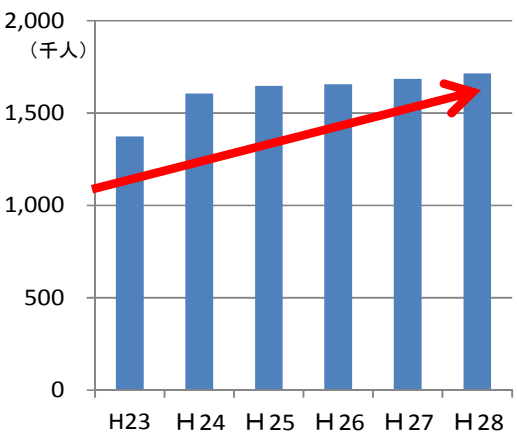
中ノ島公園へのアクセス路が整備されておらず、来訪者の安全な通行を妨げている。

評価項目：事業の緊急度、関連事業との整合

事業の緊急度

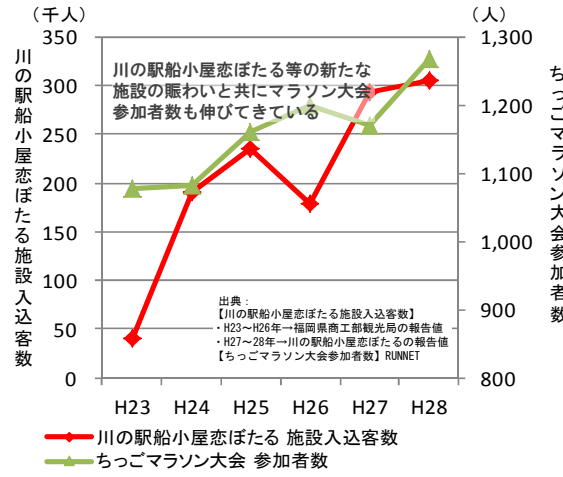
- 筑後市・みやま市の観光客数は年々増加しており、船小屋地区周辺の入込客数も増加している。
- 船小屋地区は、年間を通じた観光拠点として、堤内外の一体的な利活用やそのための水辺整備が両市及び地域から期待されている。
- 県営「筑後広域公園」のサブエントランスエリア(みやま市側)は、平成30年4月に西側を、平成30年8月に東側を供用開始しており、賑わいを見せている。

■ 筑後市・みやま市観光客数



出典：福岡県商工部観光局

■ 船小屋地区周辺における入込客数の推移



出典：
 【川の駅船小屋恋ぼたる施設入込客数】
 ・H23～H26年→福岡県商工部観光局の報告値
 ・H27～28年→川の駅船小屋恋ぼたるの報告値
 【ちっこマラソン大会参加者数】RUNNET

■ 県営「筑後広域公園」全体図



平成30年4月、8月に供用開始しており、賑わいを見せている



▲賑わいを見せる「川の駅 船小屋恋ぼたる」のイベントの様子



▲盛り上がりを見せる「ちっこマラソン大会」の様子(矢部川堤防)



▲県営「筑後広域公園」(サブエントランス)

関連事業との整合

- 矢部川で実施する環境整備事業と関連する事業はない。

地域の協力体制

- 矢部川水系河川整備計画では、地域と連携し、人と河川の豊かなふれあいの場の確保を掲げている。
- また、船小屋地区かわまちづくり計画では、筑後市、みやま市、関係団体等との連携により、賑わい空間の創出と地域活性化を図ることとしている。

・ 矢部川水系河川整備計画(変更)[平成28年11月策定] 4.4 河川環境の整備と保全に関する事項 4.4.4人と河川の豊かなふれあいの場の確保

人と河川の豊かなふれあいの場の確保については、今後も水遊びや釣り、散策や各種スポーツ、イベント等市民や観光客の憩いの場としてのニーズや周辺状況の変化等を踏まえ、関係機関及び地域住民等と連携して安全性及び利便性に配慮した河川整備及び維持を目指す。

・ かわまちづくり計画(平成31年3月8日変更)

<目標>

- ・ 周辺施設との導線の確保や 水辺空間の利便性、安全性及び快適性の確保
- ・ 船小屋地区の地域活性化に向けた取組み
- ・ かつての賑わいを取り戻す「中ノ島公園」の復活

<かわまちづくり協議会の発足と取組>

- ・ 自治体の意見交換・社会実験の意見を踏まえ、「矢部川船小屋地区かわまちづくり協議会*」を平成30年度に発足。

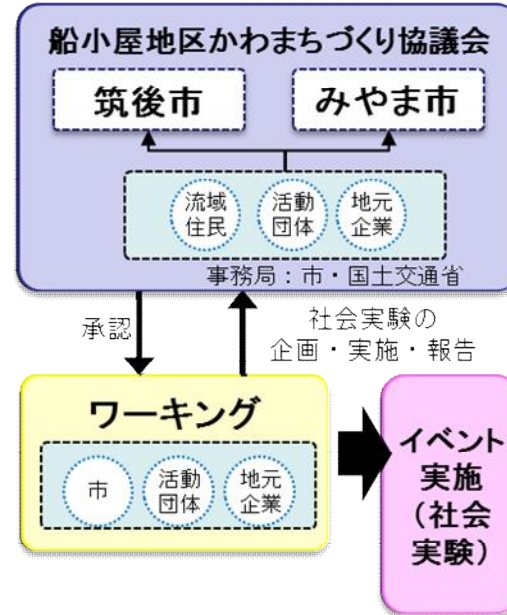
※地域住民や活動団体・地元企業、自治体、国で構成(右図参照)
 ※協議会(7回)やワーキング、社会実験(2回)等を開催。

- ・ 利活用や整備プランについて協議・合意形成のうえ、かわまちづくり計画のとりまとめ等の取組みを実施。



矢部川の水辺に賑わいを取り戻す社会実験の実施 (H30. 9)

<推進体制>



■ ワーキングメンバー

所 属	
九州芸文館	川の駅船小屋恋ぼたる
筑後市観光協会	筑後商工会議所
山門青年会議所	
矢部川くすべプロジェクト実行委員会	
みやま市観光協会	みやま市商工会
筑後市役所	みやま市役所
国土交通省 筑後川河川事務所	

■ 協議会委員

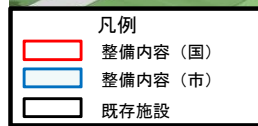
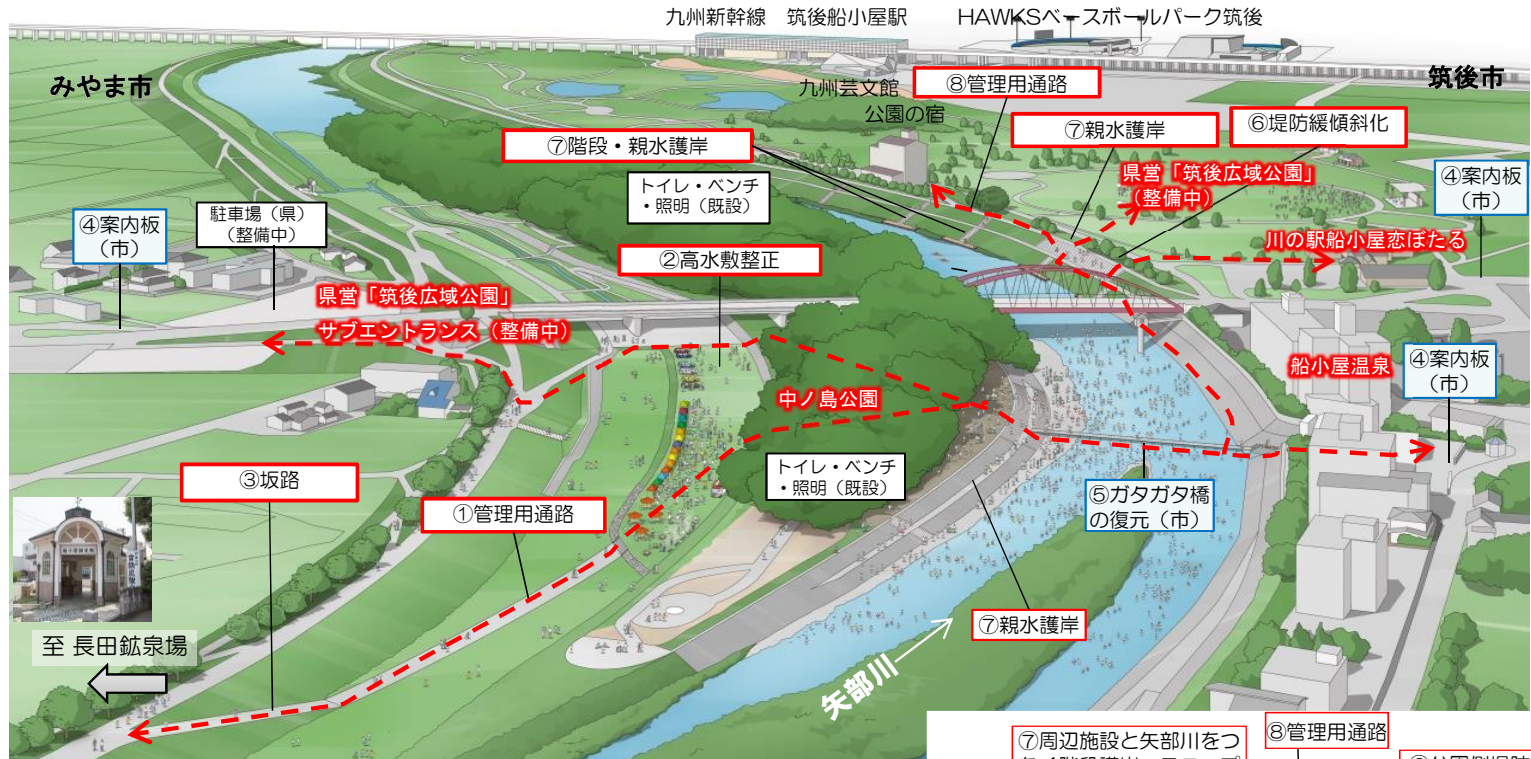
所 属	
地域関係団体	船小屋鉱泉保存会
	国土交通省 河川情報モニター(地域住民)
	川の駅船小屋恋ぼたる
	水洗校区コミュニティ協議会
	筑後市観光協会
	筑後商工会議所
	筑後青年会議所
	八女県土整備事務所 都市施設整備課
	みやま市本郷校区
	みやま市水上校区
みやま市側	長田地域振興会
	みやま市観光協会
	みやま市商工会
	山門青年会議所
	矢部川くすべプロジェクト実行委員会
	南筑後県土整備事務所 都市施設整備課
	行政団体(事務局)
みやま市 建設都市部	
国土交通省 筑後川河川事務所	

事業概要

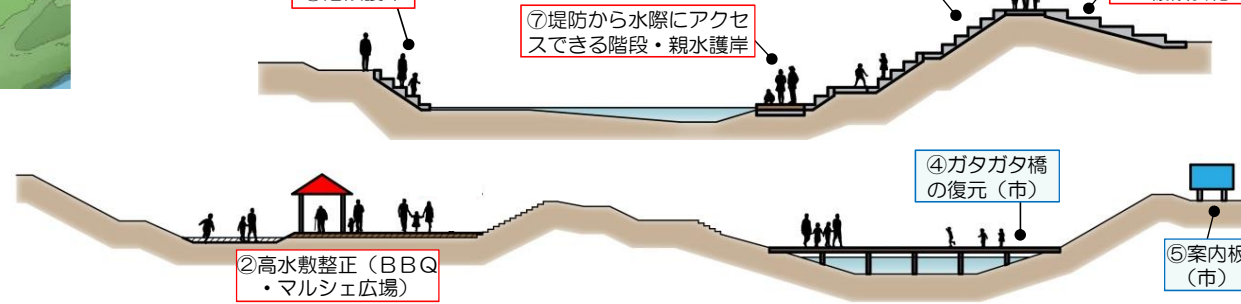
かつての賑わいの中心であった船小屋地区の中ノ島公園を中心とした水辺の賑わいを取り戻すため、地域と一体となった整備を実施し、水辺空間を創出する。

- 河川敷地占用許可準則22条を活用し、バーベキュー場や売店等として利用するなど水辺のオープン化を進める。
- 整備中の県営「筑後広域公園」や温泉施設等の周辺施設から矢部川のアクセス性を高め、周辺施設と一体とするため、国が管理用通路や高水敷等の整備、市が施設案内などの情報発信に活用する案内板等を整備する。

新規整備	<p>①管理用通路(国) 川を活用したイベント等を行うスペース(高水敷)へ安全にアクセスできる通路を整備する。</p> <p>②高水敷整正(国) バーベキューやマルシェ広場などに活用ができるスペース(高水敷)を整備する。</p> <p>③坂路(国) 河川敷への安全なアクセス路と観光施設(長田鉱泉場等)から川への動線を確保するため、坂路を整備する。</p>
	<p>④案内板(市) 歴史や文化、施設案内などの情報発信に活用するため、案内板など(既存物及び新規物)を適切な位置に設置する。</p> <p>⑤ガタガタ橋の復元(市) かつて船小屋温泉と中ノ島公園を結ぶ散策路として架けられていたガタガタ橋を復元整備する。</p> <p>⑥堤防緩傾斜化(国) 河川敷でのイベントなどで利用するスペースとして活用できる緩傾斜堤防の整備あわせて、県営「筑後広域公園」などから河川敷へのアクセスがしやすい階段を整備する。</p> <p>⑦親水護岸(国) 水際に安全に近づくことができる護岸を整備する。</p> <p>⑧管理用通路(国) 周辺施設から川へ安全にアクセスできる通路を整備する。</p>



【横断面図】



総事業費：約 8.0 億円(国)
事業期間：2019年度～2028年度

評価項目：費用対効果分析

- 便益算出は、仮想的市場評価法(CVM)によって便益算定を行った。
- 受益範囲は、利用者の認知度や事業対象地の自治体を考慮し、半径10kmを調査対象範囲と設定した。
- 有効回収数は、308票で1世帯あたりの支払意思額(WTP)の平均値は、320円/月/世帯となった。
- 費用便益分析した結果、建設費と維持管理費を合計した総費用(C)は7.7億円、総便益(B)は64.0億円であり、費用対便益費(B/C)は8.3となる。

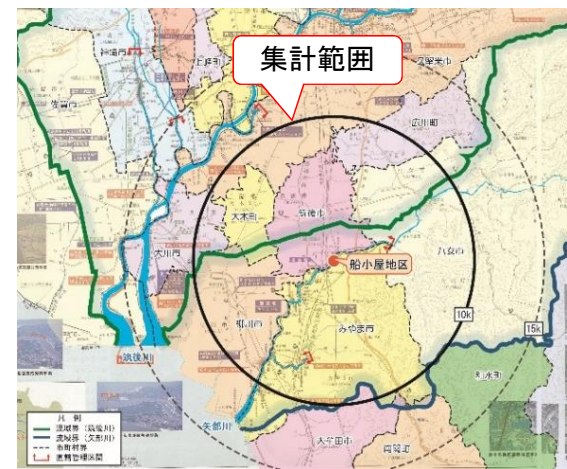
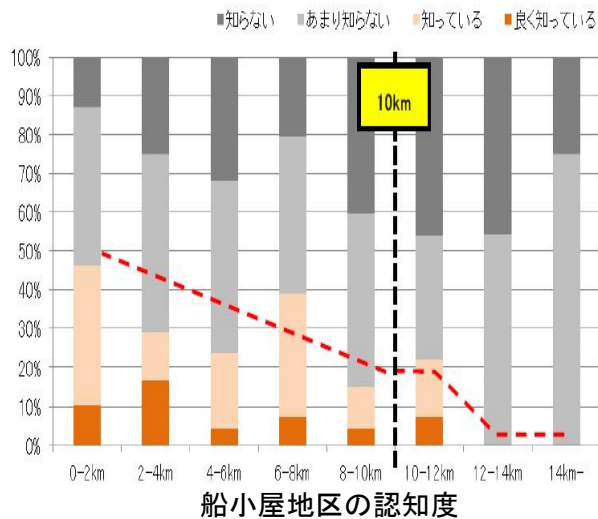
■ アンケート調査概要

項目	内容	
実施形式	郵送調査	
標本となるデータ	住民基本台帳から抽出	
アンケート送付数	2,000票	
調査対象範囲	整備箇所から10km圏内	
負担金に関する設問について	支払形態	負担金
	支払方法	月払い、年払いの併記
	提示額の設定	50・100・200・300・500・1,000・2,000・5,000 円/月の8段階

■ アンケート集計結果

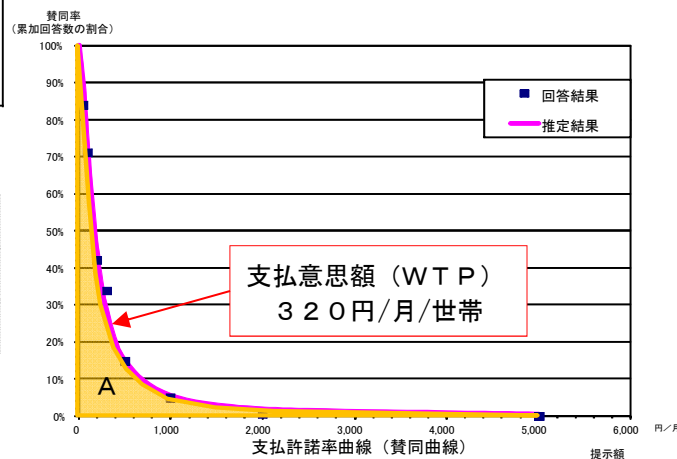
アンケート送付数	2,000票
回収数(回収率)	526票(26.3%)
有効回答数(回答率)	308票(58.5%)

■ 受益範囲の設定



便益算定のための受益範囲 (10km)

■ 支払意思額



■ 事業の投資効果

B/C	8.3	総費用(C)	7.7億円	総便益(B)	64.0億円
		建設費	6.6億円	便益	64.0億円
		維持管理費	1.1億円	残存価値	0.05億円

※金額は基準年 (H30年) における現在価値後を記入